

太田東西かわら版

2020.3

「看取り士」

太田憲一誕生



2月29日。薬剤師歴32年の太田憲一は、「看取り」の資格を取得。

<看取り士>として正式にデビューいたしました。

写真は一般社団法人日本看取り士会 柴田久美子会長から認定証を授与して
いただいている模様です。

その人の人生がそれまで99%不幸だったとしても、最期の残り1%に幸せを
実感してもらえたら、その人の人生は幸せで終わる。旅たちの前、その時に
「安心感」「満足感」を与える担い手。それが「看取り士」です。

厚生省の発表では、2025年に団塊の世代約800万人が後期高齢者に突入し、国民の4人に1人が75歳以上になる超高齢化社会を迎えます。しかし、「長生き＝めでたい」とは言っていない事実があります。入院できる病院、入所できる施設、対応する人が足りないのです。

昨年日本人の死亡数は約137万人。昭和41年の最低死亡数67万人の2倍以上が亡くなっています。年間137万人というのは長崎県の人口が132万人ですから、昨年1年間で長崎県民が消滅した・・・ということです。

これから日本は超高齢化社会から、<多死社会>を迎えるのです。

一方、昨年の出生数は86万人。差引51万人の減。人口減少はさらに加速。超高齢化社会を引き受ける若い世代が増えない・・・ゆえに、死に場所のない「死に場所難民」がこれからどんどん増加します。2025年には、その難民が43万人になると試算されています。

そこで国は「病院から在宅へ」急ピッチで進めていますが、時代は核家族が主流で、「子が親を介護して看取れる」という状況ではありません。親孝行の気持ちがないのではなく、別居という現実では至難ということです。

みなさん！ 大変な世の中になっていくのですよ！！

「今日は何を食べるかな？ 何のテレビ見るかな？ どこが安いかな？」そんなことばかり考えていたら、“死に場所難民”になるかも。(Ⅲ)

せめて還暦を過ぎたら、「どういうゴールにするか？」家族と真剣に話し合っ、現実を踏まえて用意することをおすすめします。

さて、私はこれまで薬剤師として「病気を治す」「1日でも長く健康で生きる」それを信条としてお客様のご相談を受けてきました。それはこれからも同じです。今以上に薬剤師として“妙薬”を極めていきたいと考えています。しかし、「健康」「寿命」ばかりにこだわってはいは、大切なことを見失うと気づいたのです。

幸せな人生とは長さではなく「内容」だと。「ゴール前の心」次第だと。

会長の柴田久美子さんは、医師でも看護師でもありません。ご本人曰く「ふつうのおばちゃん」です。(笑)

その柴田さんはバリバリのキャリアウーマン時代に心を病み、大量の睡眠薬で自死を図りました。しかし奇跡的にこの世に戻されたのです。生と死の極限を自ら体験されて、“元祖看取り士”として、これまで200人以上看取って来られました。「看取った」というのは、「臨終に立ち会った数」の実績ではありません。

立ち会う中で、旅立つ人に「尊厳と安心」を与えているのです！
悲しみに暮れる家族（遺族）に、「感謝と感動」を与えているのです！！

こんなことを実践している病院や関係者を私は知りません。
『看取り学』なんて、大学でも学会でも習ったことはありません。なぜなら今の医療は「死は敗北」「死は悪」「死は無価値」とする考えですから。

それならば、人は「最悪」に向かって生きている。人生の最期は「残念」で終了することになる。「死んだらおしまい」。ほんとうに、そうなのか？

私はこの仕事を通じて、「死には価値がある」「死を持って本人も家族も学ぶことがある」「死別は家族愛を最高に高める尊い出来事である」そう確信していました。

しかし、そうした死生観を持っている医療従事者はとても少ない。だから私は、自分の仕事に虚無感を覚え、“死を肯定する”自分の人生観にどこかで自信を持ってないでいました。
そんな時に、柴田さんとのご縁をいただきました。
“同志”は医師でも薬剤師でもなく、“看取り士”だったのです。



HOT（訪問太田東西）MOT（看取り太田東西）のお知らせ

太田東西薬局はただの「町のお薬屋さん」ではなく、「病気予防」「健康長寿」を目標に、お客様の人生を明るく楽しく幸せに導く“パワースポット”です。

運転免許返納、入院、施設入所などで薬局に出向くことが困難になった場合は <HOT（ホット）>として、こちらから漢方を持参して訪問します！
入院中や感染症などで外出できなくなったお客様のもとに訪問して、漢方だけではなく「安心感」を提供いたします。今までも活動していました。



そして今年から平日2時～4時まで薬局を閉じて、正式に<HOT>の活動を優先することにしました。

ご希望のお客様は遠慮なく、「HOTお願いしま～す」とお電話ください。

さらに3月から、<MOT（モット）>の活動も開始します！！

（某お弁当屋さんとは関係ありませんよ笑）

「看取り士の太田先生にぜひ看取ってほしい、でもまだ死にたくない」
多くのお客様の本音だとお察しいたします。（^^）

「早く看取らせてください！」なんて、誓って思っていないよ（笑）

しかし、“その時”は必ず等しく訪れます。お客様だけではなく、私にも。

**薬剤師として、生き抜くことに最高の漢方を持って希望を与え
看取り士として、死にゆく時に最高の慈愛を持って寄り添う。**

“く・す・り” & “み・と・り”

それが太田東西薬局！！ 覚えておいてください（^^）／